

(世界恐慌) 2021 年に向け、今を生き抜き、次世代事業のブレイクスルーを実現する！

4月30日、マドンナが「抗体検査を行ったら陽性だった。感染していた事が判り、(自分は抗体を持ったので) 明日からドライブに出てコロナ空気を一杯吸うわ」という様なツイートをし、賛否を集めていました。

一方、現在、世界中で一流のミュージカル女優俳優、アーティスト、アスリート等が部屋に籠り、長期戦になる新型コロナ(COVID-19)問題の中、明日の生活さえ不安に思っている方が多くいます。

今月も、新型コロナ問題を避けてビジネスを進める事はできないので、先ず、コロナ・マターへのビジョンと方針から示します。

5月4日、日本に於いて緊急事態宣言延長の決定が為されました。今後、新型コロナの対応は、感染拡大の第一波、第二波、と長期戦を覚悟しなければいけません。国内外、様々の議論が為されていますが、ここで冷静に本質を見て、国民、企業、日本が為すべき 'FACT' に注目したいと思います。

勿論ゴールは、コロナ問題が落ち着くまでの一定期間内(国民の多くが60%方抗体を持つ2022年頃と言われる)、「コロナによる死者数と不況による死者数合計の最小化」。

その為に、世界は、「①医療崩壊を避ける」事、「②恐慌を避ける」事、「③ワクチン・治療薬開発を急ぐ」事に取り組んでいます。

この3ファクターの内、③ワクチン等開発は、世界の英知を結集し、今後更に国際間の連携により取り組み、①医療崩壊回避は、(スウェーデン、ニカラグア、ブラジル等以外)各国が最優先で取り組んできました。

今後は、並行して、前例のない現状に於いて、更に②恐慌回避に取り組んでいく事と思われます。

今は、「滑稽」に思われるかも知れない位、ドラスティックに飛躍した考え方や生活スタイルが、今後は、徐々に求められてくるのかも知れません。

各ファクターのバランス実践

変革の時期は、「超」長期的に考える必要がありますが、コロナ前から、世界は、ある種、価値観の進化が求められていました。即ち、「人類と地球との共生」について、哲学を含めて、「現状 資本主義」と(計画経済でない)「計画的 経済」とのバランスについて、又、人間の価値観と生活のスタイルについての喫緊の「ブレイクスルー」が求められていました。

日本に於いては、東京一極集中によるリスクの分散、全日本的な活力を引き出す事含め「道州制」へのシフトがテーマでした。

コロナによって今、これらのテーマが総論で判断され、各論でも実施されるべく顕在化しています。

コロナというある種、世界を席卷した「コンテンツ」が、思想として「コロナとの共生」という、新たな生活、活動のスタイルを求めています。

2020年4月、CO2排出量に関して、人類の生存にも必要な、地球環境の循環可能な基準に下がり始めたようです。

「現状 資本主義」と「計画的 経済」のバランスに於いて、価値観、生活スタイルの「進化」含め、最初に設定しなければいけないテーマはここかも知れません。

「コロナ共生」スタイル

上記ファクター②「大恐慌回避」に於いては、先ず「日本が世界恐慌を招かない」という意志を持つ事が重要です。

その第一ステップとして必要な行動は、最大限、①「医療崩壊回避」とのバランスの下で、②「恐慌回避」に向け活動を止めない「明確な指標」を持つ事も一つと思われます。

「コロナによる死者数と不況による死者数 合計の最小化」というゴールに向けた、①「医療崩壊回避」と②「恐慌回避」とのバランスに於ける「明確な指標」とは何か？

最終、北米では 40%~70%が感染(*)し 60%位が感染した後にピークアウトし、新規感染者数が減少する、というデータがあります。(※米国疾病予防管理センター (CDC) の新型コロナの予測データ)

抗体者が60%位に増える 2022 年辺りまで 感染拡大 第一波~外出自粛(禁止)~第二波~外出自粛(禁止)~, と繰り返す様なイメージです。その間、経済活動を止めた場合、間違いなく世界は恐慌に陥ります。死者数は、コロナを上回る可能性があります。

(「感染者数 2 万人突破」「感染者数 300 万人突破」という報道は、(感染者数は減少しない)「累積数」であり、人々のパニックと医療混乱の遠因となっています。感染者は忌み嫌う者、という見方さえ生まれています。

今残っている「純患者数」は、(90%位は完治する 現在の) 治った者の数 (=「完治者」の数) を差し引かなければならず、完治者は「抗体」を持ち、再び感染し難いものです。

連日の過度なパニック報道に、視聴者は皆、興味を持ちますが、視聴者は皆、不安になります。結果、「年間 1 億 4 千万人」が罹る風邪で、37 度熱が出て不安な人が医療機関等に連日電話、訪問で押し寄せるのが現状です。)

ポジティブな指標として、完治者、即ち「抗体者」の増加という考え方があります。

完治者は、「抗体者」として、以後、「ほぼ」感染(*)しません。(※尚、ウィルスは現在 3 種類あり中国と欧州で異なる事を留意し、又感染者が陰性となった後に再び陽性となるレア・ケースに対して、「完治者」の定義を厳密にする必要があります。)

「累積」の感染者数は、増え続けますが、同時に、「抗体者」の数の増加も示す事で、ある種のバランスが取れます。

そして感染者の数から抗体者の数を差し引いた「純患者数」の減少は、一つのポジティブな指標となり得ます。

生活スタイル、活動スタイルに於いて、今は 各論の前に総論として「簡略化した考え方と方向性」を打ち出す必要性を感じます。

考え方としては、仮に「仕事場で、抗体者と陰性の者のみであれば、感染拡大は理論的には零。仕事場への移動時で、感染しなければ感染拡大は零」というものです。

即ち、(1)抗体者と陰性の者を明確にした上で、抗体者と陰性の者は 仕事場では通常活動に戻る事。(2)あらゆる移動で感染リスクを極力零に抑える事。日常のスタイルとしては、例えば、(不特定多数に接しない) 活動場面に於いては次の様な実践です。

「感染拡大 ほぼ零」のビジネス環境

(1)新規感染者を炙り出すPCR検査と並行し、最大限「同レベル」で感染履歴のある者、即ち「(後期)抗体者」と「陰性の者」を炙り出す「抗体検査」を実施する事。

(2)抗体検査は、人間の生活を支える各組織（企業、学校、施設等）が主体的に医療機関等と連携し実施。

(3)「陰性の者」の感染リスクを抑える為に、抗体検査後、（特に経済を動かす 働く）陰性の者は、あらゆる移動時に感染を遮断する「(簡易版)防護服」を装着する事。簡易版として、例えばN95マスク、簡易ゴーグル、ビニール手袋の3点により目鼻口を防護し、衛生ルールは遵守する事です。（(簡易版)防護服は、例えば、人間の生活を支える各組織が主体的に行政機関等と連携し取り揃えます。）

我々のライツマネジメント、コンテンツ、クリエイターに関わるビジネスに於いては、世界中で一流のミュージカル女優俳優、アーティスト、アスリート等が部屋に籠り、先の見えない不安を抱えています。上記(1)～(3)の実施に於いて、彼らに対しても「抗体者」と「陰性の者」を炙り出す「抗体検査」を実施する事を強く願望します。

ミュージカル、アーティスト、アスリートがパフォーマンスする場所（仕事場）では、「抗体者」と「陰性の者」が（濃厚接触を行いつつ）存分に演技、競技等を行ってOK。そのコンテンツは「5G配信」によって、同時にリアルに全国に届けられ、B2C決済、又はB2B広告によりマネタイズ、パフォーマー達に還元されます。（勿論、「陽性の者」は治療と対応が必要。）